



としょかん通信

石狩市民図書館

石狩市花川北7条1丁目26番地

TEL 72-2000

FAX 73-9120

http://www.ishikari-lib-unet.ocn.ne.jp/ E-mail: ishikari-lib@mail.ishikari-lib-unet.ocn.ne.jp

●開館時間 火・金10:00～18:00 水・木10:00～20:00 土日祝10:00～17:00

花川北・花川南・八幡・浜益分館10:00～17:00 厚田分館13:00～17:00

司書日記

ハーフパイプって何??

トリノ五輪には、石狩からフリースタイル・モーグルで附田雄剛さんと、スノーボードのハーフパイプで國母和宏さんが出場する。これを祝して本館でも本のテーマ特集でその関連本を集めてみた。：といいつつ、恥ずかしながら私はハーフパイプをほとんど知らない。そこで今回は、ハーフパイプについて調べてみようと思う。

資料探しの原点は、事典などの参考図書から当たることだが、期待した『日本大百科全書』にはハーフパイプはおろか、スノーボードの文字すらなかった。それだけ新しい競技ということか？ そこで

今度は『現代用語の基礎知識 2006』をめくると、あった！ スノーボードは、1960年代の、米国ミシガン州生まれ。アルペン系とフリースタイル系に大別され、ハーフパイプは後者にあたると。長野五輪から正式種目になり、ジャンプや回転のエア（演技）の難易度、完成度、高さ、組み合わせなどが採点対象になる。エアには、ボードを手にかむグラブ系のほか、横回転するスピン系、手をつかずに縦回転するフリップ系など、いろいろ恐ろしい技があるらしく、「その芸術面を競うという点ではフィギュアスケートに似てるかも」とは、当館の

スノーボード愛好家であるNさん。ハーフパイプとは「パイプを半分に分けたような溝状のコースだから」。そのコースの縁（リップ）というを利用してジャンプやエアを行うが、平成9年発行の『雪と氷のスポーツ百科』によると、コースは全長120m、深さは3.5mとある。が、実際のトリノでは全長150m、深さはW杯でも最大級の5.5mに及ぶらしい。これは新聞のデータベース検索をした結果、分かった。この点を再びNさんに尋ねると「その分、ほかの大会よりエアの滞空時間が長くなるはず」とのこと。選手にとっては見せ場が増える大会らしい。

（清水千晴）

本のテーマ特集

テーマごとに古今東西の本を集め、自信を持っておすすめします。

2月の予定は次のとおりです。

●本館

1月31日(火)～2月12日(日)

①「雪と氷の祭典 inトリノ」

②15日(水)～28日(火)

③「障がいへの理解を深めよう」

●分館

1月31日(火)～2月22日(水)

「時代の先駆者たち」

「冬のおはなし」

「冬の恐怖特集」

■花川北分館

■花川南分館

■八幡分館

2月の休館日

休館(月曜)：6・13・20・27日

祝日振替日：14日(火)

図書整理日：24日(金)

2月のスケジュール

◆おはなし会

4日(土)・12日(日)・18日(土)・19日(日)・26日(日)

「本館おはなし会」

所 おはなしのたまご 時 13:30～14:00

演 おはなしボランティア「びっくりばこ」(4日・18日)

おはなしボランティア「むかしむかし」(19日)

本館司書(12日・26日)

11日(土)

「花川南分館おはなし会」

所 南コミセン和室 時 11:00～11:30

演 ボランティアおはなし会「びっくりばこ」

25日(土)

「八幡分館おはなし会」

所 八幡コミセン和室 時 13:30～14:00

演 分館司書

◆絵本を楽しむ 第14回

19日(日)

「～ファンタジーの世界の住人たち～ 鬼と天狗」

所 研修室・3 時 11:00～12:00

演 安齋久子氏(子どもの本専門店「どりーむきゅっちゃん」店主)

◆ビデオ上映会

5日(日)

80年代演劇祭「きらめく星座 一昭和オデオン堂物語」

所 視聴覚ホール 時 14:00～16:30

演 井上ひさし 犬塚弘 夏木マリ 橋本功 ほか

幼時の体験をもとに書き下ろし自ら演出した井上ひさし

「昭和庶民伝」第一作。

◆子どもビデオ上映会

19日(日)

「あしながおじさん」「ヘビとおしゃべりかみさん」

所 視聴覚ホール 時 14:30～15:30

◆CDコンサート

11日(土)

「小曾根真 The Trio／新世界」

所 視聴覚ホール 時 14:30～15:30

25日(土)

「ヨーロピアン・ジャズ・トリオ／夜行列車」

所 視聴覚ホール 時 14:30～15:30

◆赤ちゃんの時間

28日(火)

「あかちゃんとあかちゃん絵本とおもちゃの部屋」

所 研修室・3 時 10:00～12:00

◆「名作を聴こう会」

9日(木)・23日(木)

「昭和ニッポン 一億二千万人の映像」

所 視聴覚ホール(入場無料) 時 13:00～14:00

※9日は昭和28年～29年、23日は昭和30年～31年

を鑑賞します。

炎のかけら

教育委員会では、昨年（平成17年）9月から11月にかけて旧長野商店の解体調査を実施しました。旧長野商店は、明治時代に建てられた

木骨石造の店舗と蔵で、市の文化財に指定されています。道道の拡幅工事に伴って移築することになったため、今年度は解体作業を行いました（写真1）。

写真2は、調査の際に旧長野商店の床下から出土した陶器片です。一見すると普通の茶碗のかけらに見えますが、表面はザラザラして、まるでのりで張り付けたように砂粒がこびりついていました。よく観察すると、これは単なる汚れではなく、高温により表面の釉薬が溶けて、砂粒が張り付いたものと分かりました（写真3）。また、一緒に発見されたガラス片には細かいヒビが入り、ところどころ茶色く色が変わっていました。

陶器片などが発見されたのは、床下を掘った際に発見されたオレンジ色の砂の層でした。このオレンジ色の層は、遺跡などで見られるもので、熱によって含まれている鉄分が酸化して変色してできるものです。

熱で表面が溶けた陶器片や焼けて変色した砂の層など、これらはすべて明治27年に店舗部分が建てられる前に火災があったことを示しています。

明治時代の石狩本町地区は火事が多く、長野商店の創業者・長野徳太郎氏は、4回焼け出されたと伝えられています。『石狩町消防百年史』によれば、明治26（1893）年12月9日に親船町の大部分が焼失する火事が起こったとされています。今回発

▶ 写真2 出土した陶器片



見された陶器片は、113年前に長野商店を襲った猛火の証拠となるものです。

さて、解体された旧長野商店は、いま、静かに復元工事が始まる春を待っています。近い将来、建築当初の姿を取り戻した旧長野商店をお見せできることでしょう。

（工藤義衛）

■木骨石造

日本の伝統的な木造建築と西洋の石造建築がミックスした建築法。木造の骨組みに石を銚などで張り付ける。

▶ 写真3 陶器の表面



■文化財課・いしかり砂丘の風資料館 ☎62-3711

✉i-museum@bz01.plala.or.jp

■石狩浜海浜植物保護センター ☎72-3240

✉ihama@city.ishikari.hokkaido.jp